

新産)を報告しているので、両地の植物を比較しながら同定した結果、共にメノマンネングサとするには葉や枝が小型であり、ミヤママンネングサとする方が良いと考えるに至った。したがってミヤママンネングサは雄鉾岳と福島町の、共に渡島半島部に分布することになる。

**オヤマソバ** *Polygonum nakaii* (Hara) Ohwi 日本固有の本種は北海道では日高山系南部～中部(アボイ岳、幌満岳、十勝岳、中の岳など;高橋 1981 など)に集中して分布していることが知られていた。1979年8月31日、ニセコ山系熊野山(岩内町)でも本種が得られ、筆者(1983, 北海学園大学学園論集 45: 83-99)が当地の高等植物目録の中にその産を報告しているが、十分に公開されていないのでここに再掲しておく。

**ヒメアゼスゲ** *Carex eleusinoides* Turcz. 本種は東北アジアに広分布する高山一寒地植物であるが、日本では大雪山にのみ知られていた。1985年8月9日、植物写真家の梅沢俊氏が日高山系幌尻岳の七ツ沼カールから採集したスゲ属植物を同定した結果、この地が第二の産地となることがわかった。その生育地は大雪山の場合と同様の水湿豊かな砂質地であるという。

(北海学園大学 教養部生物学教室)

#### 〇ムニンモチについて(山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Ilex beecheyi* Loes.

ムニンモチは葉が小さく、倒卵形または卵状楕円形で、葉身の基部は葉柄へ長く流れる以外にシマモチと異ならない。シマモチの葉は著しく変化に富み、ムニンモチとの間に連絡する個体もみられる。ムニンモチは一般に山地の低木林内にはえ、シマモチは高木林の林内や林縁にはえるが、明瞭に生育場所が異なるともいえない。遺伝的に異なるものと思うが、種として区別するほど異なったものではなく、変種として扱うのが妥当であろう。シマモチは小笠原諸島の父島列島、母島列島に広く分布するが、ムニンモチは母島にしかみられない。共に琉球のオオシイバモチ *Ilex warburgii* Loes. に近縁である。

***Ilex mertensii* Maxim. var. *beecheyi* (Loes.) Yamazaki, comb. nov.**

*Ilex integra* Thunb. var. *beecheyi* Loes., Monogr. Aquifol. 1: 273 (1901).

*Ilex beecheyi* (Loes.) Makino in J. Jap. Bot. 5: 14 (1928).

Distr. Isls. Bonin: Is. Hahazima.

(東京大学 理学部附属植物園)